

障害を持つ方のケアや、近隣諸国からの移民への支援について学ぶ ニュージーランド 2018/8/6-2018/8/11

池山萌香（公共・3年） 布山佳菜子（公共・3年）

研修の目的

障害を持つ方のケアや、近隣諸国からの移民への支援について学ぶ
ニュージーランドと南太平洋諸国のつながりをニュージーランドの側から学ぶ

渡航先での旅程と活動内容

1日目：Hohepa Auckland
知的障害のある方がコミュニティを形成し、それぞれ少人数の家でスタッフの支援を受けながら生活している場所にうかがい、運営者やスタッフ、インターンで来ていたドイツの大学生、利用者とお話をした



2日目：Autism NZ
教師や一般の人々へのASDに関する啓発活動、当事者を対象とするワークショップを行っている



3日目：Spectrum care
知的障害者、身体障害者を対象とする様々な施設を運営しているオフィスの方や知的・発達障害にかかわる看護師にお話をうかがった後、重度心身障害のレスパイト施設や知的障害を持った大人のデイケア施設を訪問した

4日目：CMDHB
ニュージーランドで暮らす南太平洋諸国の方々の健康上の課題に対し、出身が近い医療スタッフが対応



4日目：Penina Health Trust
コミュニティでの支援(ホームレスの人や犯罪を犯した人への住居提供)



5日目：Diversity Counseling New Zealand trust
言語や文化を尊重しながら移民の支援をしている

研修を通して学んだこと

1日目にあった日本人スタッフの方は、ASDの子どもにより個性を尊重した教育を受けさせたいと望んで日本からニュージーランドに移住したとおっしゃっていたのに対し、2日目のニュージーランドで長く支援をされている方は、学校にきちんとした枠組みがある日本はASD傾向の子どもも判断を求められないので参加しやすく素晴らしいと言われ驚きました。物事には様々な側面があることを感じました。

目的を達成できたか

研修前アプローチした施設の方にテーマに沿った他の施設を紹介してもらい、大変充実した研修になりました。英語圏であることが大きいと思うが、どこに行ってもインターン生や見学者が世界中から来ていて受け入れる体制にあることに驚きました。

グローバルな視点とは何か

事前学習では進んでいるようにみえたニュージーランドの教育制度で、実際には良い仕組みだとは考えられていないものもありました。一方向から考えるだけではわからないことがあると感じました。多方向から物事を捉えることがグローバルな視点だと思います。

将来の進路決定へどう影響したか

改めて精神保健について考える機会を得たことで、学びたいと思う気持ちを高めることができました。

反省点

今回のテーマに沿った事前学習や、施設について調べたり質問を考えたりはしていましたが、訪問国の一般的な歴史的背景や制度について知っておくことも大切だと感じました。

後輩へのアドバイス

自分が行きたい国・施設をしっかりと考えましょう。主体的に取り組むことで得られるものは大きくなると思います。現地の日本人と会うことで、日本との違いに焦点を当てた話を聞くことができ、有益な情報を得られるかもしれません。

研修支援制度に望むこと

研修に行かせていただいて、肌で感じることの大切さを学びました。今後この制度が続くことを願っています。